

お友達だって、たたかれるのはイヤなんだよ

～ 小郡市人権・同和教育研究協議会 夏期研修会から ～

どの子どもクラスの中に自分の居場所があり、クラスや園の中の大切な一人として楽しく幼稚園生活が送れるように願っています。

そのために、常に保護者と連携しながら日々の保育を行なっています。

ほとんどの子が集団生活を経験するのは初めてです。不安げな様子の子どももいましたが、自分の遊びをみつけて遊んだり友達の遊びに入ったりして、遊ぶ姿がみられました。

でも、興味のないことはしない、みんなと一緒に話を聞けないなど、自分の好きなように行動する子どもも目立ちます。



写真と本文は無関係です

「欧米か？」

子ども達の様子を見ていて気になったのは、ぶつかっただけでたく、気に入らないと蹴るなどの衝動的な行動でした。驚いたことにテレビのお笑いギャグをまねて、「欧米か？」と友達の頭をたく子どもが何人もいることでした。そこで、“人の頭は大切なところ”“たたかれたらどんな気持ちがするか？”など問いかけながら、相手のいやがることはしないように伝えていきました。保護者に対しても人をたくとはどういうことかを話し、大人が冗談と思っても子どもにとっては、いじめ等の問題につながるのではないかなど、話しました。しかし、保護者が暴力的な行動に対してあまり問題にしていけないことが気になります。

「狼がきた！」のかわいそうな狼

保育活動の中で、“おなかのすいた狼に食べられないように子豚を守ってあげよう！”という題材で線遊びをしました。

ところが、「狼をやっつけよう！」という子どもが次々にできました。この時、「狼＝わるもの」というような題材を選んだことや、狼がどうしてそうしたのか、きちんと伝えなかったことを反省しました。このようなイメージが出来てしまったのは、これまでの絵本やお話にもあると反省し、逆に、主人公が仲間はずれにされてしまった話なども、読んでいきました。

このように、現在人権に関するこれまでの保育の取り組みを見直しているところです。

仲間に入れて！

3月生まれのA児は一人っ子で、友だちと遊んだ経験が少ない子です。そんなA児に対して友だちが遊びに入れてくれないと保護者から相談を受けました。

そこで、私も一緒になって「入れて！」と遊んだりしました。他の子ども達の間でも、同じような姿が見られたので、朝の集いのときにA児に自分の気持ちを話してもらいました。思いが伝わりその後は、誘って遊ぶようになりました。

問題の場面に直面したとき、子ども達と一緒に考えるようにしてきましたが、一人ひとりにきちんと分かるように伝えているのか、私の押し付けになっていないだろうかという思いがあります。

相手の気持ちに置き換えてどのように受けとめケアしていくのが大事であり、これらは、日々の保育の積み重ねで身につけていくのだと思います。子どもの何気ない動作、行動を真剣に受け止め、日常的な子ども達の様子を伝えることで問題提起を行うなど、「自分を大事にしてくれている」という感性をともに養っていくことが大切なことだと思います。(提起者)

「差別と人権の現実を見つめ、そこから部落解放・人間解放の道筋を切りひらく実践を創り上げていこう」をテーマに夏期研修会を8月25日に開催しました。

就学前教育分科会では、保護者の思いを受け止め、ともに子育てを行い、子どもの人権を大切にしたい保育の実践を交流・学習する場となりました。

○小郡市人権・同和教育研究協議会事務局
☎72-2111内線533